



畠山京子セミナー 子どもの権利条約ワークショップ

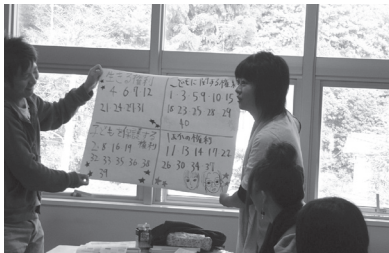
報告者 広島文化短期大学保育学科 教授 畠山京子先生

ポイント

広島文化短期大学保健学科では、児童福祉の授業の一環として、日本ユニセフ協会広島県支部の協力を得て、「子どもの権利条約」についてのワークショップを実施、募金活動、更に卒業研究で「ユニセフのつどい」における研究発表等を行いました。世界には、厳しい暮らしをしている子どもたちが多くいます。ワークショップでは、世界の子どもの実態と子どもの権利を守る40条の絵カードを通じ、具体的な条例を学ぶことができました。学びから実践へと、1年生は大学祭でユニセフ募金を呼びかけるステージ発表、更に1、2年生で、年末にはハンド・イン・ハンドの街頭募金活動に参加しました。2年生は卒業研究で、「子どもの権利条約」を取り上げ、「ユニセフのつどい」における研究報告と、子どものHIV/エイズ問題についてを訴えました。これらを通じ、ユニセフに係わるものが、世界の子どもと日本の子どもの現状及び課題を学び、保育者として果たす役割の認識を深め、人として育っていくことを学生を通して実感しています。



事例研究1 「ラジャンの村と井戸」について討論。井戸ができて子どものどんな権利が守られたか話し合う。



事例研究2 母親が子どものはがきを無断で読む事例について討論。まとめとして「子どもの権利条約」を具体的に学ぶ。



学びを実践に

ワークショップをきっかけに、11月の「あかね祭」でユニセフ募金を呼びかけるステージ発表を行い、協力をあおぐ。



ユニセフ募金贈呈式

「あかね祭」で集まった募金を、日本ユニセフ協会広島県支部山本事務局長をお招きして、募金の贈呈式を行う。このときの様子は、中国新聞に掲載される。



ユニセフ歳末募金に参加

ユニセフ募金ハンドインハンドに参加。アンデルセン前で、道行く人に募金を呼びかける。中国新聞に掲載される。

学生の感想

「ユニセフのつどい」のステージ発表は、短大生活最後の活動となり、多くの人に世界の中の子どもたちがのびのびと生きていける世の中になって欲しいという気持ちを持って発表しました。これまでの活動を通して、私たちができることは身近にあり、将来のある子どもたちが「夢」を持ち、自分らしく生きていけるように日本の子どもたちだけでなく、世界の子どもたちが幸せに生きられるように、保育士として可能な支援を行いたいと思いました。